

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000926		
法人名	株式会社 ナショナルスタッフセンター		
事業所名	グループホーム 松風		
所在地	北海道北見市とん田東町450番地7		
自己評価作成日	平成22年8月2日	評価結果市町村受理日	平成22年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://system.kaigo.joho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175000926&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基本に、スタッフは日々ケアがそれに沿っているか常に確認しながら、共に学び合う姿勢の中で、入居者様本位のケアサービスを目指し取り組んでいます。入居者様が過ごされる共有スペースには、入居者様が取り組んだ作品や季節の飾り付けをし、穏やかに生活できる雰囲気作りに努めています。入居者様・御家族様に、安心・信頼頂ける様、スタッフ一同日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して5年目を迎える当事業所は、北見市中心部に位置し2階建て2ユニットになっており、高齢者賃貸住宅が併設され協力体制を整えています。今年度より新たなスタッフ体制でスタートし、開設時からの理念『四季のある、自由な生活、快適に、おいしい食事』に沿い、利用者本位のケアサービスの実現を目指しています。管理者、職員は利用者の個性を尊重しながら尊厳に配慮した対応を心掛ける事を共有認識として確認し、利用者のその人らしい普通の暮らしを支えています。新体制となり今迄のサービスを検証しながら、更に良い方法をと管理者、職員で話し合い生活記録をケアプランと連動した記録様式にする等改善に努めています。施設長は職員教育にも熱心に取り組み、内部研修の充実を図り、職員のスキルアップに繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時期ごとの行事で外出したり食事でご飯を感じてもらったり季節ごとの行事を取り入れている。 できるだけ外気浴をしたり外部を感じていた だけよう努力している。	開設時からの理念を施設長、管理者、職員は常に念頭に置きながら利用者本位のケアサービスの実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流まではできていない	町内会組織の無い地域となっていますが、事業所行事時に隣接町内会に声を掛け、又、災害時の協力要請を行う等努力を重ね、交流が築かれて来ています。	今後、更に隣接町内会等、地域との交流を深め、事業所の理解に繋げて行くと共に双方向の交流実現の工夫を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達とのかかわりが持てていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催で状況報告はできている 家族からの意見が少ないので気軽に話し合える環境作りも努力しなければならない	利用者家族、地域包括支援センター職員、事業所職員等が参加し3か月に一度開催されています。会議では状況報告、行事予定、意見交換など話し合わせ、事業所運営に活用されています。	事業所の理解を深め、地域の中で利用者を支える為に、地域住民の参加を促す工夫を今後も重ねると共に、話し合われた情報を家族、地域住民と共有して行く取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上、疑問点等については、その都度担当部署に連絡・確認している。	行政担当部署とは事故報告、相談、情報交換などに努め、又、生活保護課職員が事業所を訪問する等、常に連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束的なケアはない 玄関の施錠は夜間行っている	契約書に身体不拘束を明記しています。利用者の安全確保の為、止む終えない場合は家族と話し合いの基、同意書を交わしています。ミーティング時に言葉の暴力に付いての話し合いを行い、利用者の尊厳を尊重する事を確認しています。玄関の施錠は夜間のみとなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を参考に合同会議で学ぶ機会があった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料の回覧があり、スタッフ全員に回覧された		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明や疑問も含め、家族と面談にて契約が行われている。契約後も、疑問等があった場合は、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で徐々に家族の意見を少しずつ聞かせていただけるようになってきている。また、家族同行の行事等でスタッフと気軽に話せる場をもうけている	意見箱を設置しています。施設長、管理者、職員は家族の訪問時に希望や要望を問いかけ、何でも言ってもらえる関係作りを心掛けています。運営推進会議も家族の意見表出の機会となり、出された意見は事業所運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議等で意見の場はもうけている	施設長、管理者はミーティング時や日常での会話の中で職員の意見や提案を受け入れ、運営に反映する様努めており、記録様式の変更等具体的な改善に繋げています。施設長は職員に研修参加を促しています。	施設長は職員のスキルアップの為研修情報を提供し、参加を促していますが、更に意欲を高める工夫の中で、職員自ら研修参加の意欲を持ち、サービス向上に繋げて行く事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、職員個々の努力・実績を評価し、向上心を持って働けるように資料等の提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加への推進はしている。研修に参加したスタッフは、全体ミーティングにて報告し、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワーク作りや勉強会を通じて相互の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居され、今までと環境が変わり困っていること、不安なことを常に目を配り声かけをし、安心できるよう信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ち、又、気軽に話ができるよう、しっかりと話を聞き受け止めながら信頼関係を築くことに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の御要望をうかがい、どのような支援が必要かなど話し合い、結果、御家族に伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者の方々に教えてもらうことは多いです。入居者から学び、洗濯たたみなど生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と情報を共有し、協力を得ながら、お互いの理解と信頼を深められる関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会で支援に努めています。	家族の協力も得ながらこれまで大切にしてきた馴染みの場所や人との関係継続の支援に努めています。友人が訪ねてくる事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の座席を考慮し、一緒に楽しく過ごせる関係が持てるよう、また、入居者同士の会話ができるようスタッフが間に入ったりを努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も移った他施設や担当ケアマネと経過情報交換している 街で家族に声をかけられたり買い物をしているご本人をみかけることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人から聞くことが可能であれば会話などから気持ち・意向の把握ができる様心がけている。御家族からの情報を参考に、本人らしく過ごして頂ける様努めている	生活暦の把握や家族からの情報を基に、日々の関わりを通し、会話や表情、態度などから希望、意向の把握に努め、本人らしい毎日が過ごせる様支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの情報、御家族から以前の生活・暮らし方など聞き、慣れ親しんだ生活をして頂ける様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身の状態は生活記録を確認、又、スタッフ間、専門職と連携し把握に努めている。変化時は分かりやすくメーカーでチェック、口頭引き継ぎ、連絡ノート情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族と面会時受診対応に施設に来所時などにご本人の様子をお話、ご希望を聞きケアプランに反映する様にしている。月1回のカンファレンスでスタッフ全員の意見を聞き、又、状態の変化にもその都度援助状況を確認し細めに対応している	家族の訪問時や電話等で利用者の状況を説明する中で希望や要望を把握し、カンファレンスでのスタッフの意見も参考にしながら本人本位の介護計画を作成しています。モニタリングも定期的に行い現状に即した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス時、個人の生活記録でご本人の様子や気づきを職員内で情報を共有しケア方法を検当し、情報を周知している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、訪問歯科、訪問理容、介護タクシーなどニーズに合わせて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケボランティア、訪問歯科、訪問理容等を利用し安全で豊かな暮らしを楽しめる様対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、御本人及び御家族等の希望のかかりつけ医やかかりつけ医からの紹介で適切な医療を受けている	利用者や家族の希望するかかりつけ医と連携し、必要時には看護職員が記入した申し送りを持参するなど適切な医療が受けられるよう取り組んでいます。定期受診はすべて家族対応に成っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調を観察し異変に気づいたときは看護師へ報告、相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、情報提供を行っている 又、入院中の様子を見に行き情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度の終末期の方はいない。体調変化時は家族へ報告し受診している	重度化対応指針を作成し、契約時に家族に説明すると共に同意書を交わしています。必要に応じ、話し合いの機会を設けるなど意向を尊重して対応する体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けている 応急手当等は習ったことを基礎とし対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を行い町内の民生委員等も参加されている	消防署の協力のもと、5月に日中を想定した避難訓練を実施する中、町内会長の協力が得られています。10月には緊急連絡網を活用し、夜間を想定した訓練を予定しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人を知り、その人にあっただ対応をし、自尊心を傷つけることの無い様に声かけや対応をしている。	職員は利用者の尊厳を傷つける態度や言葉遣いに注意を払っています。記録の記入や保管にも配慮すると共に個人情報の取り扱いについては同意書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かするときや御本人から何か訴えてきたときなど、話を最後まで聞きどうしたいかを本人に問いかけ決定してもらい、それに沿って援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日とその人の毎日の過ごし方を、ある程度把握したうえで、その人にあっただ生活を送ってもらえるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら着替えされる人に対しては体調や季節を考えながら本人に任せ、支援が必要な人はスタッフが考え、最後は本人の意思を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備を一緒に出来る人に対しては無理のない程度に手伝ってもらい、その人その人にあっただ食事を準備して出している。	共同住宅の管理栄養士が利用者の嗜好や季節を考慮した献立を作成しています。利用者の「おいしいね」の言葉は食卓が一層楽しい雰囲気になっています。利用者の力量に応じ職員と茶碗洗い、茶碗拭き等を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は常時気にかけて、その都度声かけして摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは全員行い、夜は義歯をポリドントへつけて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を察知して一人ひとりに合った介助、支援をしている。	チェック表を活用し、生活パターンの把握の中、尊厳に配慮したさり気ない声かけを行い、支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳、カツゲン他摂取していただき、又、その人にあつた下剤などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ご本人の希望を聞き、お湯の温度なども配慮して楽しんで入浴できる支援をしている。	週2回は入浴できるよう支援しています。利用者の状況に合わせて柔軟に対応するよう努めています。安全に配慮された明るい浴室になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の空気の入れ替えや暖房調節他を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう確認強化し服薬の支援、薬後の症状の変化他に注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	遊びの中で楽しみを増やしホーム外でおやつを食べたり食事をして気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望によって御家族と外に出かけたり、入居者全員で花見他の支援を行っている。	体調や天候等に考慮し、日常的に散歩や買い物等に出掛けています。季節毎の花見やドライブの他、5月には家族も参加のバスツアーを開催するなど、外出を楽しめるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗られた、無くなった等の問題が起きないように、お金の所持はしないようにしているが、持っている事で安心する人には所持して頂いているが毎日確認している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は内容を聞いてスタッフが番号を押すか本人が押して話している。耳が遠い方はスタッフ代弁している。手紙は出したいといわれたらスタッフが出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所の張り紙をしたり、1日2回掃除をして不快感や混乱をしない様にしている。壁に松風だよりや写真、作り物を貼って季節を感じて頂き、温度や光などに配慮している。	共有空間は明るく、ソファでは利用者同士で談笑したり、壁面には季節毎の飾り付けや使い勝手を考慮した手すり等で居心地良く安心感のある場所になるよう工夫や配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って過ごされたり気のあった利用者同士で会話や歌を聴いたりTVを観たりと、思い思いに過ごされ見守りしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れたものを用意して頂き、使いやすいように御本人の希望を聞いたり安全を考慮して過ごしやすく工夫している	居室にはベッド・椅子・テレビなどの思い出の品々や使い慣れた物が持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、居室が分かりやすく出来ていたり、手すりも一人ひとりの安全性を考えて必要なところに付け加えたりしている		